

|                 |
|-----------------|
| 第114回 電気用品調査委員会 |
| 2022年7月5日       |
| 資料No.5          |

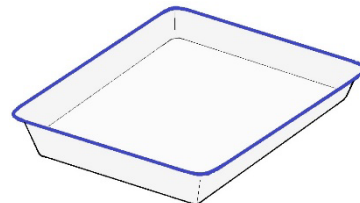
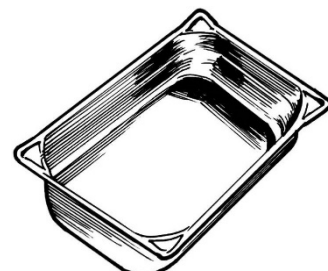
「電気用品の技術基準の解説」の見直し提案（2022年7月）

| 資料     | 通し頁 | 提案元 | 16版ページ | 表題                                    | 備考     |
|--------|-----|-----|--------|---------------------------------------|--------|
| No.5-1 | (1) | JQA | P826   | 別表第八 附表第三 絶縁性能試験 6 (2) (沸騰水を入れた容器の寸法) |        |
| No.5-2 | (2) | JET | P576   | 別表第八 2 (12) 電気温水器 (温水洗浄便器の平常温度上昇)     | 現状解説なし |
| No.5-3 | (4) | JET | P609   | 別表第八 2 (29) 電気接着器 (自動温度調節器を有する電気接着器)  | 現状解説なし |

「電気用品の技術基準の解説」の見直し依頼票

見直し依頼元：JQA 担当：蟹井

見直し依頼日：2022 年 1 月 14 日

| 現状解説（解説本 第 16 版 826 ページ）  | 見直し案 | 提案理由 |     |     |     |     |     |     |   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |  |   |     |     |     |     |     |     |     |   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |   |
|---|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|--|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| <p>別表第八附表第三 絶縁性能試験</p> <p>（解説）1.～5.（省略）</p> <p>6. [6 耐湿絶縁試験] (2)の、「沸騰水を入れた容器」とは、約 80%の量の沸騰水を入れた庫内の床面積に近い大きさの容器をいい、次の表の写真用バットを使用する。</p> <p style="text-align: right;">（単位：mm）</p> <table><tr><td>横</td><td>150</td><td>260</td><td>290</td><td>370</td><td>410</td><td>500</td><td>760</td></tr><tr><td>縦</td><td>120</td><td>160</td><td>230</td><td>320</td><td>420</td><td>520</td><td>600</td></tr><tr><td>深さ</td><td>30</td><td>30</td><td>45</td><td>50</td><td>60</td><td>60</td><td>90</td></tr></table> | 横    | 150  | 260 | 290 | 370 | 410 | 500 | 760 | 縦 | 120 | 160 | 230 | 320 | 420 | 520 | 600 | 深さ | 30 | 30 | 45 | 50 | 60 | 60 | 90 | <p>別表第八附表第三 絶縁性能試験</p> <p>（解説）1.～5.（省略）</p> <p>6. [6 耐湿絶縁試験] (2)の、「沸騰水を入れた容器」とは、約 80%の量の沸騰水を入れた庫内の床面積に近い大きさの容器をいい、次の表の<u>寸法に近い写真用バット又は製品に附属する容器のいずれか大きい方</u>を使用する。</p> <p style="text-align: right;">（単位：mm）</p> <table><tr><td>横</td><td>150</td><td>260</td><td>290</td><td>370</td><td>410</td><td>500</td><td>760</td></tr><tr><td>縦</td><td>120</td><td>160</td><td>230</td><td>320</td><td>420</td><td>520</td><td>600</td></tr><tr><td>深さ</td><td>30</td><td>30</td><td>45</td><td>50</td><td>60</td><td>60</td><td>90</td></tr></table> <div><div></div><div>写真用バットの例</div><div></div><div>製品に附属する容器の例<br/>（電気温蔵庫に附属するホテルパン）</div></div> | 横 | 150 | 260 | 290 | 370 | 410 | 500 | 760 | 縦 | 120 | 160 | 230 | 320 | 420 | 520 | 600 | 深さ | 30 | 30 | 45 | 50 | 60 | 60 | 90 | <p>表よりも庫内床面積がかなり大きい(又は小さい) 製品が存在すること、「写真用バット」に JIS 規格が存在せず、市販されている「写真用バット」のサイズがまちまちであり表どおりの大きさのものを簡単に購入できないことから、製品での使用が考えられる最大の大きさの容器を使用できるように提案する。</p> |
| 横   | 150  | 260  | 290 | 370 | 410 | 500 | 760 |     |   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |  |   |     |     |     |     |     |     |     |   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |   |
| 縦   | 120  | 160  | 230 | 320 | 420 | 520 | 600 |     |   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |  |   |     |     |     |     |     |     |     |   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |   |
| 深さ  | 30   | 30   | 45  | 50  | 60  | 60  | 90  |     |   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |  |   |     |     |     |     |     |     |     |   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |   |
| 横   | 150  | 260  | 290 | 370 | 410 | 500 | 760 |     |   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |  |   |     |     |     |     |     |     |     |   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |   |
| 縦   | 120  | 160  | 230 | 320 | 420 | 520 | 600 |     |   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |  |   |     |     |     |     |     |     |     |   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |   |
| 深さ  | 30   | 30   | 45  | 50  | 60  | 60  | 90  |     |   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |  |   |     |     |     |     |     |     |     |   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |   |

（当該部解釈）

6 耐湿絶縁試験

（2）沸騰水を入れた容器を器具の庫内等に入れ、定格周波数に等しい周波数の定格電圧に等しい電圧を連続して 2 時間加えた後、通電を停止した状態において 2 時間経過した時の 5 0 0 ボルト絶縁抵抗計により測定した充電部と器体の表面との間の絶縁抵抗は、二重絶縁構造のものにあっては 3MΩ 以上であり、その他のものにあっては 1MΩ 以上であり、かつ、2 （3）の表に掲げる交流電圧を充電部と器体の表面との間に加えたとき、連続して 1 分間これに耐えること。

「電気用品の技術基準の解説」の見直し依頼票

見直し依頼元：JET 担当：\_\_\_\_\_

見直し依頼日：\_\_\_\_\_

| 現状解説（解説本 第 16 版 576 ページ） | 見直し案   | 提案理由  |
|--------------------------|--|---|
| なし                       | ハ項において、電気温水器であって、電気便座を有するものの「平常温度上昇」は、別表第八 2（6 9 の 3）ハを適用する。 | 電気温水器に規定された平常温度上昇では、電気便座を有するもの（温水洗浄便器）のことが考慮されていないことから、2（6 9 の 3）自動洗浄乾燥式便器の規定を適用することを明確にする。 |

（当該部解釈）

別表第八 2 （ 1 2）電気茶沸器および電気温水器

ハ 平常温度上昇

試験品を厚さが 10 mm以上の表面が平らな木台の上に置き、自動温度調節器（温度過昇防止装置として使用するものを除く。以下ニにおいて同じ。）の動作温度を最高温度にセットし、定格容量（定格容量の表示のないものにあつては、容器の容量の約 80%）の水を入れ、定格周波数に等しい周波数の定格電圧に等しい電圧を各部の温度上昇がほぼ一定となるまで連続して加え、この間の各部の温度は、附表第四の左欄に掲げる測定箇所（同表 8 の測定箇所を除く。）にあつてはそれぞれ同表の右欄に掲げる値以下、試験品を置く木台の表面にあつては 90℃（基準周囲温度は、30℃とする。）以下であること。

別表第八 2 （ 6 9 の 3）自動洗浄乾燥式便器

ハ 平常温度上昇

（イ）通電試験

次の a から d までに掲げる試験条件において、定格周波数に等しい周波数の定格電圧に等しい電圧を試験品に加えて連続して運転し、各部の温度上昇がほぼ一定となった時の各部の温度は、附表第四の左欄に掲げる測定箇所（同表 7 の測定箇所を除く。）にあつてはそれぞれ同表の右欄に掲げる値以下、次の表の左欄に掲げる測定箇所にあつてはそれぞれ同表の右欄に掲げる値以下であること。

| 測定箇所   |                         | 温度（℃）  |
|--------|-------------------------|--------|
| 外かくの外面 | 金属製のもの、陶磁器製のもの及びガラス製のもの | 55（65） |
|        | その他のもの                  | 70（80） |

（備考）

- この表において、基準周囲温度は、30℃とする。
- かっこ内の数値は、便座の部分に適用する。
- 温度の測定は、熱電温度計法とする。

- 自動温度調節器（温度過昇防止装置として使用するものを除く。以下ニ及びホにおいて同じ。）を有するものにあつては、その動作温度を最高温度にセットすること。
- 温水、温風、薬液等の調整装置を有するものにあつては、これらの調整装置を各部の温度上昇が最も高くなるような状態にセットすること。
- 便器には給水を行わないこと。ただし、通常の使用状態において、自動 的に給水又は排水が行われるものにあつては、この限りでない。
- a から c までに掲げるもの以外のものであつて、器体の温度を変える装 置を有するものにあつては、その装置を器体の温度が最高の温度になるよ うにすること。

（ロ）運転試験

次の a 及び b に掲げる試験条件において、定格周波数に等しい周波数の定格電圧に等しい電圧を試験品に加えて試験を行ったときの各部の温度は、附表第四の左欄に掲げる測定箇所（同表 7 の測定箇所を除く。）にあつてはそ れぞれ同表の右欄に掲げる値以下、（イ）の表の左欄に掲げる測定箇所にあつてはそれぞれ同表の右欄に掲げる値以下であること。

- 自動温度調節器又は温水、噴水、温風、薬液、水勢等の調整装置を有す るものにあつては、これらの調整装置を各部の温度上昇が最も高くなるような状態にセットすること。
- 放流レバー以外の操作用レバー、スイッチ、ツマミ等を有するものにあつては、それらの操作順序に従い、電熱装置操作用のものにあつては 3 分間、その他のものにあつては 1 分間（自動的に停止する装 置を有するものにあつては、その停止装置が動作するまで）操作し、3 分間休止する操作を 20 回繰り返すこと。

## 「電気用品の技術基準の解説」の見直し依頼票

見直し依頼元：JET 担当：\_\_\_\_\_

見直し依頼日：\_\_\_\_\_

| 現状解説（解説本 第 16 版 609 ページ） | 見直し案  | 提案理由  |
|--------------------------|---|---|
| 1. （省略）<br><u>（新設）</u>   | 1. （省略）<br>2. <u>「自動温度調節器」を有するものには、真空パック器のように一連の工程を自動的に行うもので、接着時間等を一定にすることによって、接着温度を一定に保つ機能を有するものも含む。</u> | 食品の真空パック器のように一連の工程（真空ポンプ運転→接着（密封））を自動的に行うものには、自動温度調節器による温度制御ではなく、接着時間を一定にすることで所定の温度で接着するようになっているものがある。解釈の規定では、自動温度調節器による温度制御をするもの以外は、（ハ）の規定（定格使用温度に 1 時間保つ）を適用するように読めるが、一連の工程を自動的に行う電気接着器ではその条件では試験実施困難であり、また、実際の使用状態からもかけ離れた試験方法となるため、自動温度調節器を有するものと同様に（ロ）の規定（最高温度、最大時間、休止 15 秒で、1 時間運転）を適用することを明確にする。 |

（当該部解釈）

別表第八 2（2 9）電気接着器

ハ 平常温度上昇

次の（イ）から（ハ）までに掲げる試験条件において試験を行い、この間の各部の温度は、附表第四の左欄に掲げる測定箇所（同表 7 及び 8 の測定箇所にあつては、手持ち形以外のものの場合に限る。）にあつてはそれぞれ同表の右欄に掲げる値以下、次の表の左欄に掲げる測定箇所にあつてはそれぞれ同表の右欄に掲げる値以下であること。

（イ）架台付きのもの、脚付きのもの、卓上形のものと及び据置き形のものにあつては試験品を厚さが 10 mm以上の表面が平らな木台の上に置き、その他のものにあつては（1 6）ハ（ロ）b の図による架台の上へのせること。

（ロ）自動温度調節器（温度過昇防止装置として使用するものを除く。以下ニにおいて同じ。）を有するものにあつては、その動作温度を最高温度にセットし、定格周波数に等しい周波数の定格電圧に等しい電圧を連続して 1 時間加えること。「連続して」とは、接着時間を調節するタイムスイッチを有するものにあつては、その最大時間にセットし、定格電圧で断続して行うことをいう。この場合において、休止時間は 15 秒とする。なお、器体の表面に運転時間及び休止時間を表示してあるものにあつては、その表示された時間とする。（以下別表第八 2（2 9）ニにおいて同じ。）

（ハ）（ロ）に掲げるもの以外のものにあつては、定格周波数に等しい周波数の定格電圧に等しい電圧を、接着部の温度を表示された定格使用温度に保つように断続して 1 時間加えること。